

地域密着型金融の取組事例

タイトル JA内連携による次世代対策 JA名 JA佐波伊勢崎(群馬県)

1 動機 (経緯)	<p> 農業者の高齢化が急速に進んでいる中、経営の縮小や廃業に向かう組合員も少ない状況にあります。世代交代は組合員とJA間の取引縮小に繋がるケースがあり世代交代をする以前に次期後継者と信頼関係を構築する必要性を感じています。 </p> <p> 支店は信用と共済の専用店舗となり営農部門と分離されました。資材館が建築され生産資材の販売を行っています。組合員は年間を通じて支店に来場する機会が減少し、組合員と職員との関係も疎遠・希薄化しつつある状況を深刻に感じ、営農から信用、家計経済まで相談できる出向く相談活動を開始しました。 </p>
2 概要	<p> 訪問活動はTAC活動メンバー並びに営農渉外担当者と融資担当・信用渉外担当で組織し同行訪問を行い、組合員、次世代後継者とコミュニケーションを図り将来到来するであろう世代交代の問題化を防止しています。 </p> <p> 訪問目的を次世代とのコミュニケーションの深化としてターゲットを定めため平成24年度はJAカードの作成を通じて訪問活動を展開しました。 </p>
3 成果 (効果)	<p> 本格的な訪問活動は平成23年11月からとなったが、平成24年2月末まで短期間ながら次の成果となりました。 </p> <p> 定期積金 3件 2,543千円 定期貯金 6件 13,500千円 JAカード作成 7枚 相談 2件 </p>
4 今後の 予定(課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・今回訪問活動を展開した先は部会組織や営農集団・法人などであり、普段から部会総会や役員会などを通じ濃密な関係が築かれている先が多いものの、さらに訪問対象を広げていく必要があると感じています。 ・訪問活動にあたっては、農繁期を避ける等、訪問先の事情に対する配慮が必要です。 ・JA内の事業間が連携して同行訪問するには、スケジュール管理などお互いの業務状況を考慮し、事前準備する必要があると感じています。